



編集・発行 邑楽町役場企画課
〒370-0692 (住所記入不要)
☎ 0276-88-5111 (代表)
☎ 0276-47-5007 (企画課直通)
☎ 0276-89-0136
URL <http://www.town.ora.gunma.jp>
E-mail koho@town.ora.gunma.jp

邑楽町携帯サイト
2次元コード対応の携帯電話は、右のコードをご利用ください。読み取りができない場合はURLをご入力ください。
携帯用URL <http://www.town.ora.gunma.jp/k>



〈第五十一回〉

若い人たちに語り継ぎたい、
次の世代に残しておきたい。
貴重な話をお届けしますー。

あすへひとこと

いつの時代までも残したい

邑楽町の昔ばなし



新井製作所の西の細道を入っていくと、林の中にひっそりと建っている大日様。夏でもひんやりとしたこの空間に足を運んでみてください

大日社と白蛇

もしかしたら、下寺中地内に大日社があるのを、すっかり忘れてしまったり、全く知らない人がいるかも知れません。小さな社ですが存在しています。

場所は大信寺から少し東の細道を入ったところで、社は西向きに建てられています。西向きの神社は珍しいので、何かいわれがらうです。

昔は、この大日様は安産の神様として知られ、地元信者が多く、よく安産祈願が行われた、と古老が語り伝えました。

また、この社前には、今はありませんが蛇の絵馬が納められていたことがありました。これは白い蛇で、この大日様の主だと話題になったことがあるといわれます。

それはだいぶ前で、もう100年以上にもなりましようか。この地のある家で節句の餅をついている時でした。箕に広げた餅の取り粉に、蛇の跡がはっきりとつきましました。驚いた家人が、辺りを探しましたが、蛇の姿はどこにもありませんでした。

そこで、これはきっと大日社の主に違いないと、箕についた蛇の跡を頼りに、有能者に依頼して絵馬に描き、社前に納めました。

それからしばらく月日は流れましたが、どうしたことが、絵馬の筆を取った人が病に伏すようになりました。あまり重いのので、先達を招いて祈禱を受けました、蛇の障りという結果が出ました。

そこで、こうまでも蛇の祟りが人々に及ぶことは、土地のためにも案ぜられたので、例外ながら祭りを催し、心身を清めました。それから再び、この蛇の障りもなくなったということです。

弘法大師の蚊封じ

昔、弘法大師が赤岩に来て真言宗の教えを説き、今の光恩寺をお開きになったそうです。

大師はあちこち布教して回り、たまたま洪沼に差しかったころは夜になってしまいました。このとき、一夜の宿を提供した家がありました。夏のこと、蚊がたくさんいて寝苦しかったのでしよう。

翌日、大師はお礼に「この家に蚊が出ないようにしてあげましょう」と言って、蚊封じの祈禱をしてくださいました。それから蚊が出なくなると伝えられています。

戦後間もない昭和27年ごろも蚊が少なく、あまり蚊帳をつりませんでした。弘法大師のご利益が昭和の時代まで続いたということでした。

【発行】邑楽町老人クラブ連合会 【編集】あすへひとこと編集委員会
平成10年12月31日発行「高齢者の語り(第六集)あすへひとこと」より



雨上がりの空に
(シンボルタワー)



Photo 高根澤高明(記録ボランティア)

ひとりごと From editors

▶今回取材した廃物作品を作っている山口さん。どの作品も細かい部分まで考えられていて驚きました。「車内濡れ傘入れ」はびしょびしょの傘をそのまま入れても下に水がたまり、キャップを開ければ簡単に捨てられるというものでした。面倒くさがりな私にはとても魅力的に感じました。私のお腹にたまる肉も簡単に捨てられる画期的な商品でもあればさらに魅力的ですが…。
▶さて、広報担当になり1年2か月。一眼レフカメラやデザインソフトの使い方は身につけてきたかと思えます。しかし、私が一番苦手な文章。日々苦勞が絶えません。何度も何度も校正が入ることもしばしば。早く文章力を身につけたいものです。▶残暑が残るこの季節。まだまだ暑い日が続きます。最近少し夏バテ気味ですが、これからも最高の笑顔で頑張ります。(本澤)



この広報誌は、自然保護のため
植物油インキを使用しています。